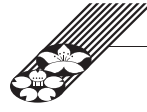


平成25年(2013年)
8/15
第63回社会を
明るくする運動
特集号

広報としま



未来へひびきあう人まち・としま

主 な 内 容

中央大会「区民のつどい」…………… 1面

作文コンテスト受賞作品 …………… 2・3・4面

発行：豊島区 編集：子ども家庭部子ども課 〒170-8422 豊島区東池袋1-18-1 ☎3981-2187

“社会を明るくする運動”

犯罪や非行を防止し、 立ち直りを支える地域のチカラ



セレモニーの様子

「第63回“社会を明るくする運動”」の行動目標・重点事項

《行動目標》

- ① 犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう
- ② 犯罪や非行に陥らないよう地域社会で支えよう
- ③ これらの点について、地域社会の理解と協力の輪を広げよう

《重点事項》

- 「立ち直りを支える取組についての協力の拡大」
- 「就労・住居等の生活基盤づくりにつながる取組の推進」

《“社会を明るくする運動”とは》

すべての国民が犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動です。

この運動は、東京・銀座の商店街の有志の方々が非行の予防等を広く訴えるために昭和24年に開催した「銀座フェア」をきっかけとして、昭和26年に始まりました。その後、法務省の主唱により、毎年7月を強調月間として全国で展開され、今回で63回目を迎えます。



中央大会「区民のつどい」 次 第

第一部 セレモニー

作文コンテスト表彰式
作文コンテスト推進委員長賞・
常任委員長賞作品発表

第二部 世代をこえてつながる 「絆」ステージ

合唱（混声合唱団みみずく）
太鼓演奏（すがも太鼓組鼓友）
お囃子（五若会お囃子部）
ダンス（中高生センタージャンプ）
パフォーマンス（立教大学応援団）

7月20日(土)に中央大会『区民のつどい』を開催しました。

豊島区では、“社会を明るくする運動”の趣旨を広くPRするために、毎年強調月間の7月に中央大会「区民のつどい」を開催しています。第63回を迎える今年は、第2部のテーマを『～世代をこえて

つながる～「絆」ステージ』とし、様々な世代の方にご出演いただき、合唱や楽器の演奏、ダンスやチアリーディングのパフォーマンスが披露されました。

第 1 部

今年度も『いのち』を題材として、作文コンテストを実施し、区内小中学校の皆さんから1218点ものご応募をいただきました。その中から優秀作品として小中学校各5作品の表彰を行い、推進委員長賞・常任委員長賞を受賞した作品の発表が行われました。

今年度は、それぞれの体験を通して『いのち』について考えた作品、また人との関わりの中で“社会を明るく”するため自分にできることを考えた作品が多くみられました。

堂々と自分の意見や体験を発表する姿は、観客の心をつかみ、中にはうなづきながら聞いている人もいました。誰もが『いのち』について改めて考える機会となりました。

第 2 部

第2部の『～世代をこえてつながる～「絆」ステージ』は、5団体に出演していただき、個性あふれるステージとなりました。

「混声合唱団みみずく」による合唱では、「ドレミのうた」、「つばさをください」、「ふるさと」など誰もが一度は聴いたことのある曲が披露されました。男声と女声が素敵なハーモニーを奏でました。

続いて、「すがも太鼓組鼓友」の小中学生による和太鼓が披露されました。体全体を使いながらの力強く本格的な和太鼓演奏に、会場からは大きな拍手がわき起こりました。

そして「五若会お囃子部」の小中学生の皆さんからは、伝統的なお囃子が披露されました。締太鼓や笛などの軽快な演奏で、ステージをいちだんと盛り上げていました。

「中高生センタージャンプ」から出演したダンスでは、出演した3グループそれぞれがアクロバットな動きや複雑なステップなど、素晴らしい踊りを披露しました。ダンスステップのレクチャーもあり、会場を楽しませていました。

最後に登場した、「立教大学応援団」によるパフォーマンスでは、素敵な衣装で登場したチアリーダーによる「スタンツ」と呼ばれる組体操やダンス、吹奏楽部による「立教アトム」などの力強い演奏に、会場はとてとても華やかで明るい雰囲気になりました。

今回は小学生から大人までの様々な世代の方が出演し、それぞれのパフォーマンスがステージを盛り上げました。そして観客の方にも手拍子などで盛り上げていただき、会場全体が「絆」で結ばれたかのようでした。

真夏の暑さの中、たくさんの方においでいただき、中央大会「区民のつどい」は無事幕を閉じることができました。

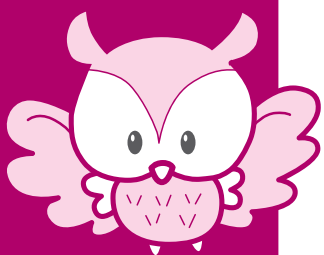
“社会を明るくする運動”に ご協力頂いている団体（50音順）

（寄付金）

株式会社 アール・エス・シー
株式会社 サンシャインシティ
株式会社 藤久不動産
株式会社 東武百貨店池袋店
宗教法人 高岩寺
宗教法人 西福寺
宗教法人 祥雲寺
宗教法人 眞性寺
宗教法人 法明寺
東鴨居中堂奉賛会
藤久地所管理株式会社
東京商工会議所豊島支部
東京信用金庫
豊島区商店街連合会
豊島区町会連合会
豊島区保護観察協会
豊島西ライオンズクラブ

（寄 贈）

東鴨信用金庫
東京信用金庫
東京都薬物乱用防止推進豊島地区協議会



小学生の部

作文コンテスト受賞作品



★
推進委員長賞
★

「命」について考える

目白小学校 5年生
みなびき りょうま
舟曳 凌真さん



僕は、今まで、お世話になっている人が亡くなったことはあるけれど身近な人を亡くしたことはありません。だから、命は誰でも永遠に続くものではないということは頭ではわかっていますが、自分の家族や僕自身がいつかは死んでしまうということがあまりびんどこなくて、時々、死というものについて想像すると、とてもこわくて嫌な気持ちになってしまうことがあります。

いつかは消えてなくなってしまうものだから、自分の命はとても大切にしたいと思います。また、東日本大震災を経験したことで、いつなにが起こるかわからないので、突然、大切な人を失って、二度と会えなくなってしまうということもあるかもしれないと実感しました。新聞で読んだのですが、ある子が、三月十一日、学校に遅刻しそうになり、お母さんにあたりちらして、「行ってきます」も言わずに家を出たそうです。お母さんはその日、津波にまきこまれて亡くなってしまいました。あの時、ちゃんとお母さんの顔を見て「行ってきます」と言っていたら…と、その子がとても悔やんでいる様子が書いてありました。だから、僕は、どんなに兄や母と喧嘩をしていても、きげんが悪いときでも、学校に行く時には絶対に笑って「行ってきます」と言おうと決めています。時々、朝急いでいるのに母がとても口うるさくて嫌だなあと思うこともあるし、兄が意地悪なことを言ったりするととても腹が立つけれど、あの新聞記事を思い出して喧嘩したまま、二度と会えなくなってしまうと、最後に交わした言葉がひどい言葉だったらいやだなと想像して、必ず仲直りしてから学校に行くと思っています。

僕の祖父母の家で飼っていた「太郎」という犬が二か月前に死んでしまいました。十二歳でした。シェパードという警察犬に多い種類の犬で、「大型犬は寿命が短いと言われるから大住

生だったのよ。」と母が教えてくれました。太郎は、元気だった頃は毎日祖父が多摩川の河原に散歩に連れて行っていました。祖父は仕事が休みの時は、太郎と庭で遊んだり、仕事に行く前に犬小屋の掃除をしたりしていました。太郎は祖父のことが大好きだったし、祖母や他の家族が言っても言う事を聞かないことがあっても、祖父の言うことだけは絶対に聞いていました。

そんな太郎が足が立たなくなり、ご飯も食べなくなり、段々弱っていき、死んでしまった日、その日は祖父が仕事で大阪に行っていて留守でした。祖母が朝から、何度も犬小屋に様子を見に行き、段々弱っていく太郎はげましていました。「もう長くはないなあ。おじいちゃんが帰ってくるまでにもかしら天国に行ってしまうかもしれない。」と祖母はあきらめていたそうです。ところが夕方祖父が帰ってくるまで、太郎は頑張っていたそうです。足音をするたびに、祖父ではないかと力をふりしぼって立ち上ろうとしていたそうです。そして、祖父がやっと帰ってきた時、意識がほとんどもうろうとしていたのに、祖父が声をかけると目を見開いて、頭を一生けん命上げようとして、かすかにしっぽをふったそうです。そして大好きな祖父にやっと会えた太郎はその日に死んでしまいました。大好きな人に囲まれて、頭をでてもらいながら天国に行った太郎は、きっと幸せだったと思います。

祖母も祖母も、太郎と楽しい毎日過ごして、愛情いっぱい育ててきたので、今はさびしいけれど幸せな思い出がたくさんあると思います。

僕は、命について考えた時、自分の命も人の命も一つしかないもので、「あのときあしてあげばよかったなあ。」と後悔することがないように生きていきたいと思いました。

★
推進委員長賞
★

社会を明るくするためには

巣鴨北中学校 3年生
なかにし
中西 かのんさん



社会を明るくすると言う事はどういう事なのだろうか…。

社会を明るくするとは、みんなが笑顔で安心して過ごせる事なのだろうか。新聞を見ても、毎日たくさんの事件や事故の記事が多く載っていて、これを無くす事など絶対にできないと思います。

でも、その中でたとえ小さくても自分に出来る事があるとすれば、やはり友人や地域の方達とのコミュニケーションをとるという事なのではないかと思いました。

私の家の近くには、独り暮らしのお年寄りが何人も住んでいらっしゃる。

顔見知りのおばあさんが、自分に何かあった時に気がついてもらえる様に、家賃を振り込みせず、決まった日に大家さんの所まで持っていく様にしていると聞きました。

そんなおばあさんの部屋のベランダに何日もマットが干しっぱなしの日がありました。

しまいのを忘れて旅行にでも行っているのかと思いました。いつもきちんとしている方なのにおかしいなあと思うようになって母と一緒に部屋を訪ねてみましたが、おばあさんは出てきませんでした。

それから、大家さんに連絡をして大家さんが区の職員の方と一緒にいくと、おばあさんは玄関で倒れていたそうです。一命は取りとめ病院に運ばれましたが、何ヶ月後かにお亡くなりになられたそうです。もっと早くに発見してあげていれば、おばあさんは元気になったのではないかと、とても悲しくなりました。

また、名前はわかりませんが、いつも、「おはよう」と元気に声をかけてくれる独り暮らしのおじいさんがいます。

その方が東日本大震災の時に、いつも行くコンビニにパンがなくて困っていました。

その時、私は丁度品物の揃った大きなスーパーで、買い物をした帰りで、パンも持っていたので、買ったパンを分けてあげました。するとおじいさんはびっくりした顔をして、「あなたの食べるパンが無くなってしまふ。」と言うので私は「また買ってくるから大丈夫です。」と返事をしました。おじいさんは深々と頭を下げて、「ありがとうございます。」と言ってくれました。ちょっと照れくさい気分でしたが、喜んでもらえて良かったと思いました。

何日かしておじいさんが、パンのお礼だと言って、私の家にたくさんの大きなイチゴを持ってきてくれました。その時私には仲の良い友達が数人いて、その友達と私はいつも一緒にいました。でも、いつからかその友達は私と一緒にいてくれなくなりました。何をしてもいつも、私を抜いたその子達だけでやるようになって、私は急に一人ぼっちになりました。なんでこんな風になったのか自分では全く分からなかった分、余計にすごく悲しくなりました。でも、そんな中でも、一人ぼっちにならずにいる私を支えてくれる友達がいました。その友達がいてくれたから、その時私は頑張っていくことができました。そして時間がたって私の代わりに次は違う子が仲間はずれにさせられるようになりました。そして私は、仲間はずれにされることがどれほど辛いことが分かっていたはずなのに、もう仲間がいれば自然と笑顔になれます。

人を良い方向にも、悪い方向にも動かすことができるのは、やっぱり「人」しかいません。その「人」の優しさに感謝しながら、命を大切に、今を大切にしていきたいです。

このように小さな事を積み重ねていく事が、今の社会を明るくする運動に繋がって行くのではないかと私は考えています。

★
常任委員長賞
★

「命」と「今」を大切に

明豊中学校 2年生
ちば もえ
千葉 萌さん



みなさんは誰かに傷つけられた経験がありますか。きっとみなさんそれぞれ、色々なかたちで傷つけられた経験があると思います。そして、その経験はよく覚えていて、このように誰かに問いかけられた時すく頭に浮かんで、「はい」と答えることができるのではないのでしょうか。私もすぐ答えられるかわかりません。なぜなら、そのことを自信をもって答えることができないからです。自分が気づかないうちに誰かを傷つけているかもしれない、自分は軽い気持ちでも相手にとっては違うかもしれない、考え出したらきりがありません。こうやって、自分の気づかないうちに「いじめ」はもう始まってしまうのかもしれません。

では逆に、あなたは誰かを傷つけたことはありますかと問いかけられたら、「はい」か「いいえ」どちらの答えにしても、あなたはすぐに答えることができるのでしょうか。私もすぐ答えられるかわかりません。なぜなら、そのことを自信をもって答えることができないからです。自分が気づかないうちに誰かを傷つけているかもしれない、自分は軽い気持ちでも相手にとっては違うかもしれない、考え出したらきりがありません。こうやって、自分の気づかないうちに「いじめ」はもう始まってしまうのかもしれません。

私は以前、こんな経験をしました。その時私には仲の良い友達が数人いて、その友達と私はいつも一緒にいました。でも、いつからかその友達は私と一緒にいてくれなくなりました。何をしてもいつも、私を抜いたその子達だけでやるようになって、私は急に一人ぼっちになりました。なんでこんな風になったのか自分では全く分からなかった分、余計にすごく悲しくなりました。でも、そんな中でも、一人ぼっちにならずにいる私を支えてくれる友達がいました。その友達がいてくれたから、その時私は頑張っていくことができました。そして時間がたって私の代わりに次は違う子が仲間はずれにさせられるようになりました。そして私は、仲間はずれにされることがどれほど辛いことが分かっていたはずなのに、もう仲間がいれば自然と笑顔になれます。

人を良い方向にも、悪い方向にも動かすことができるのは、やっぱり「人」しかいません。その「人」の優しさに感謝しながら、命を大切に、今を大切にしていきたいです。

このように小さな事を積み重ねていく事が、今の社会を明るくする運動に繋がって行くのではないかと私は考えています。

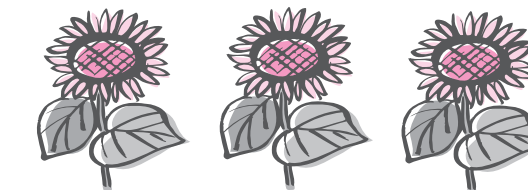
後々、自分は最低な行為をしたということによりやうく気付

友達は宝物

駒込小学校 5年
もりかわ よしの
森川 慶乃さん



「いいよ。」と言って。気づいたら手をつないで、笑いながらろう下を歩いていました。その時から、私はたくさんの友達ができ、なるべく多くの人と、かかわるようにして、四年生をすごしてきました。そして今、五年生になってやっと分かった事があります。それは、「友達は、一生の宝物」という事です。なぜ友達が宝物かという、友達がいないと学校も楽しくないし、友達がいるという事が、とても幸せだからです。「幸せ」というのは、自分の思い通りになったり、お金がたくさんあるという事ではないと思います。本当の幸せは、身近にあるのではないのでしょうか？家族がいたり、友達がいたり、自分が信用できる人がいるということが、何よりの「幸せ」だと私は思います。だから友達は、本当に本当に大切な物だと思えます。だから私は友達なしではかないです。なので友達を一人でも多くつくれるように、これから友達を信用して、うらぎるようなことを絶対しないで、いつでもずっとやさしくせしめてあげて、大切にしていきたいと思います。「友達を大切にする」この言葉の通り生きていけたらよいと思います。大人になっても、友達を大切に生きていきたいです。



★
常任委員長賞
★

思いやりと感謝の気持ちを大切に

長崎小学校 5年生
せき りゅうのすけ
関 龍之亮さん



みなさんは、食べ物に好きさらいはありますか。ぼくは、好きさらいはほとんどありません。でも、食べたくても食べられないものがあります。

ぼくには、食物アレルギーがあります。アレルギーは、卵、乳製品、落花生、魚の一部です。そのため、料理を作る時には、それらをのぞかなくてはなりません。みんなとちがうメニューなので、いっぺんに作れず大変で手間もかかります。けれど、家族や、学校給食の調理員さんと栄養士さんは、ぼくのために一生けんこんでてを考え、料理を作ってくれます。

他にも感謝したい人がいます。それは、友達や先生です。友達は、ぼくがアレルギーだということをひやかしたりせずにうけとめてくれ、アレルギー対応食にばくより先に気付いて声をかけてくれたりします。先生は、ぼくがアレルギーだということを気づかってくれ、その日アレルギーで取りのぞいたものなどを確認してくれます。みんながぼくのことを思いやり、支えてくれていて、とてもうれしいです。それに、とても感謝しています。ぼくは、食物アレルギーのせいで食べられない



★
優秀賞
★

自分にできること

池袋中学校 2年生
きたに はるか
木谷 悠花さん



「今自分に出来ることはなんだろう」考えるのは一見簡単のように思える。しかしそれを考え実際に行動することは難しいと身を持って感じた。

私が小学四年生のときのことだ。習い事の帰りに一人で電車で帰っていた。すると妊婦さんが乗ってきた。その時空いている席はなく、その妊婦さんは私の近くに立っていた。

その時私は「席を譲ろかな…」と思ったがなかなか勇気が出ず譲れないでいた。だが思い切って席を立った。立ったのはいいが、妊婦さんに「どうぞお座り下さい」と言うことはできなかった。私は今、何と自由なく生活しているのに自分のことで精一杯になっている。私は三月に祖父を亡くした。祖父は生前、「悠花、おじいちゃんの方まで生きろよ。」と言っていた。またある人はこんなことを言っていた。「神様に授けられた命をなんだから毎日感謝をしないとイケないね。」と。

だからこれからは「今自分になにができるか」を考え、周囲のことも気かけられるような人になりたい。難しいことかもしれないが、考えるだけでも変わってくると思う。だからまず、考えることからスタートしたい。そして生きていることに感謝しながら毎日を生きようと思う。

一人一人が「今自分に出来ること」を考えてほしい。そして生きていることの感謝の気持ちも持つてほしい。そうすれば日本の社会はもっと素晴らしいと思う。そういう社会を私達中学生が創っていくかなければならない。

「ありがとう」と言われた瞬間、とてもうれしかった。それと同時に、なんだか恥ずかしくなった。でもこの「ありがとう」という言葉は「今私が妊婦さんに出来ることはなんだろう」と考え行動したから聞いた言葉だった。

「ありがとう」と言われた瞬間、とてもうれしかった。それと同時に、なんだか恥ずかしくなった。でもこの「ありがとう」という言葉は「今私が妊婦さんに出来ることはなんだろう」と考え行動したから聞いた言葉だった。

一昨年の三月十一日におきた東日本大震災により、多くの犠牲者が出た。そんなとき、テレビで被災地の様子が放送されていた。命は助かったものの、家族や友人、自宅を失った方々がインタビューを受けていた。その中でとても印象に残った言葉がある。「せっかく助かった命だから亡くなった人の分まで一生懸命生きようと思った。そのためには今自分が出来ることはなにかを考えることが大切だ」

この言葉を聞いたとき私は衝撃を受けた。その方だって辛い状況なのに、自分のことでなく「今自分に何ができるか」を考えていたからだ。私は今、何と自由なく生活しているのに自分のことで精一杯になっている。私は三月に祖父を亡くした。祖父は生前、「悠花、おじいちゃんの方まで生きろよ。」と言っていた。またある人はこんなことを言っていた。「神様に授けられた命をなんだから毎日感謝をしないとイケないね。」と。

だからこれからは「今自分になにができるか」を考え、周囲のことも気かけられるような人になりたい。難しいことかもしれないが、考えるだけでも変わってくると思う。だからまず、考えることからスタートしたい。そして生きていることに感謝しながら毎日を生きようと思う。

一人一人が「今自分に出来ること」を考えてほしい。そして生きていることの感謝の気持ちも持つてほしい。そうすれば日本の社会はもっと素晴らしいと思う。そういう社会を私達中学生が創っていくかなければならない。

★
優秀賞

人の気持ち

 巣鴨小学校 6年生
 よこもり 横森 伽羽さん


この社会をもっと明るく、もっと温かくするには、言葉が必要だと思います。優しい言葉、元気をもらえるような言葉、そんな言葉が社会を明るくするんだと思いました。

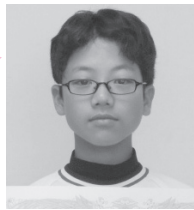
自分がどんな気持ちでいてもちょっと言葉をくれるだけで心がおだやかになって、優しい気持ちにさせてくれます。

私が毎日学校に登校する時、家族に「いってきます。」と言ったら、「いってらっしゃい。」と返してくれて、いつも朝からとてもきぶんがいいです。逆にあいさつを言い忘れるとなんだか家に忘れ物したような気がします。とくに忘れ物をしたわけでもないのに、物足りないなあ。と思ってしまいます。けんかをした時だって、とう然あいさつは言わないでちょっと不気げのまま家を出ると、「いってきます。」ぐらい言ってもよかったのかなと少し気持ちがしずんでしまいます。「いってきます。」をいつも言っていたのに、急に言わなくなった家族の気持ちはどうなんだろうと一しゅんだけ考えてしまったりして、ちょっと心残りです。それが「いってきます。」を言うと、心が晴れて少し気持ちが楽になります。あと私が学校に来る時、巣鴨小の近くのマンションの前でそうじをしているおばさんがいるのですが、そのおばさんはいつもすごいすがすがしい笑みをうかべて「おはようございます。」と言ってくれます。一番最初にそんなあいさつをしてくれた時、すごいなあと思いました。それはそのあいさつをしてくれた後自分の心がすーっと軽くなったからです。ねむいなあ、だるいなあという気持ちがいききに消えて、私は「お、おはようございます。」とあいさつを返していました。その道を横切るときも、すごいなあ、あのおばさんとずっと頭の中で思っていました。大きな声で、優しい笑顔で言ってくれたそのあいさつは、いままでとは少し違う、とてもおだやかな気持ちになりました。あいさつパワーってすごいなあと思いました。その時から、私もあいさつをしてこんなふう to 思ってくれるならもっといいあいさつをしたいと思うようになりました。相手の目を見て、大きな声で、そしてすてきな笑顔で「おはようございます。」って言いたいな。今日は初めて会ったから、明日、絶対に明日ががんばろうとちがいました。その日、私は学校に行く時のそのマンションの近くのおばさんを見つけて、よし、元気に言うぞと心の中で思っていた時、「おはようございます。」とおばさんがあいさつをしてくれました。私も「おはようございます。」と言えました。後々、ちょっとごこちなかったかなと思いつつもとてもうれしい気持ちでいっぱいでした。

あいさつは人を元気にしてくれる。そんなの本当なのかなといままで思っていた私でしたが、毎日あいさつをしてくれた家族と、初めて会った人のおかげで自分も元氣になれたし、人のことも元氣にしてあげたいと思うこともできました。これからただのあいさつではなく、心のこもったいいあいさつをしていきたいです。

★
優秀賞

ゆずるということ

 巣鴨小学校 6年生
 たかぎ 高木 久仁暁さん


三年生のころ、父が電車でお年寄りに席をゆずっているところを見ました。その時、ぼくはなぜか見ているだけでうれしくなりました。その時、自分もやってみようと思いました。四年生になって、電車で出かけた時、ぼくがすわっていたら、お年寄りが前にいて、「ゆずろう。」と決心しました。でも、勇気がなくて、そのまますわったままでした。その日から何日かたった日。また電車にのって、すわり、お年寄りがいました。こんどこそ!と思い、勇気をふりしぼり、「どうぞ。」といって、ゆずりました。そしたら、お年寄りが、「どうもありがとう。優しいねえ。」といってくれました。その時はもう、うれしくてうれしくて、たまりませんでした。ゆずるということをする、ものすごくうれしい気持ちになります。中には、「いいよ別にいい」とえんりよする人もいますが、それでも、よく出来た!と自分をはげしました。

ゆずるということはとても大切なことです。席などをゆずった時、相手がどのような気持ちになるか考えたことはありますか。ぼくの予想では、とても楽になり、うれしくなると思います。まだ子供だからゆずられないけど、そういう体験があると思います。でも、勇気がなくて、ゆずれなかったこともあります。お年寄り、ゆずってもらえなかったらどのような気持ちになるでしょうか。座れないと大変ですよ。お年寄りが立っているのに、スマートフォンなどをして知らんぷりをしている人がいたら、何だか腹が立ってしまいます。

「ゆずる」ということには、席をゆずる他にも色々なことがあります。例えば、目が不自由な人に道をゆずったりすること。道で目が不自由な人が歩いているところを見たことはありますか。こういう時には、道をゆずってあげましょう。他に、小さい子に並ぶ順番をゆずること。ぼくは、こういう体験が何度もあります。低学年の何かに並ぶ順番を、「前いいよ」とゆずったりしました。みなさんもこういう体験はありますか。こういうことも、席をゆずるのと同じような気持ちになります。

「ゆずる」ということをすると、自分の達成感、相手の喜び、両方いい気持ちになります。日本、世界の人々がこのような良い行動を実行できたら、きっと素晴らしい世の中になると思います。「ゆずる」ということは、本当に大切なものです。

★
優秀賞

『今、私たちができる事…』

 明豊中学校 3年生
 ないとう 内藤 瑠梨さん


テレビや新聞では、毎日のように事件やいじめのニュースが報道されています。安全で安心な生活を送るのがすべての人の望みです。このような、事件やいじめなどの「犯罪」や「非行」をなくすために、私たちが今、できる事は何か。私たちは何をすべきか。考えてみました。

そこで思いついたのは、小学校の時にに行った「社会を明るくする運動」です。パレードや街頭広報で地域の人との交流を深め、より良い町づくりを築くための運動です。このようになにげなく参加している学校行事のなかにも、私たちがより良い町づくりのために貢献できる事はたくさんあると思います。そのためには、一部の人だけでなく、すべての人がそれぞれの自分の立場で地域や社会との関わりをもち、交流を深めていく事が大切です。たとえ、あやまちを犯した人であっても、そこから、どのように立ち直るのか。その立ち直りを支えていける地域をつくり、一人一人の意見を聞き、一人一人を尊重し合えるようにすれば、事件もへり、安全で安心な暮らしができますと思います。

私は、「より良い町づくり」を学校内での生活とてらし合わせてみました。みんなが安心できる学校は、とても良いと思います。もしそこに、いじめがあれば、不安の気持ちが生まれてしまいます。最近、ニュースで「いじめ」と「自殺」という言葉を目にします。いじめが原因でたった一つしかない命を捨ててしまっている。考えられません。いじめている方は「ふざけ」としか思っていないくても、それを受けている方が「いじめ」と思えば、それは「いじめ」という、りっぱな犯罪だと思っています。私は、いじめゼロな学校。そして犯罪ゼロの地域を築いていきたいです。「ゼロ」というのは、とても難しい事かもしれないけれど「ほぼゼロ」というのは、一人一人の気持ちで、できる事です。地域の活動や、学校行事に積極的に参加し、より良い町をつくりたいです。これから先の未来の社会は、今の私たちが築くものです。そのためにも、今できる事を探し、「犯罪」や「非行」をへらしたいです。また、毎日のようにテレビで見る、「事件」をなくしたいです。一人一人が小さな命からすべての命を大切に、楽しく笑顔で生活を送っていけるように、今からできる事をやりたいと思います。

★
優秀賞

生まれて生きてこれたこと

 明豊中学校 1年生
 おいかわ 及川 ポーンパンさん
